

フナ大量死 及び 湖山池水質関連記事

日本海、朝日、読売以外に、毎日鳥取版も調べたが、同紙の今回のフナ大量死関連記事はゼロ。

2012.05.03 日本海 昨年春の第一回目の大量死について

**湖山池でフナ大量死**  
特有の病気が

鳥取県は2日、鳥取市の湖山池でフナが大量に死に約2千匹(710kg)が打ち上げられたと発表した。県はフナ特有の病気の可能性が高いとみて調べている。

県と市の調査などによると、4月22、23日ごろからフナの死骸が目立つようになり、湖岸全域に打ち上げられていたという。湖山池漁協とともに5月1日に死骸を回収して、焼却処分した。

同池では2010年にもフナの大規模な発生し、フナ特有の疾病の運動性エロモナス症が確認された。県栽培漁業センターが行った今回の検査で原因細菌は検出されていないが、県水産課は「検体の腐敗で正確な結果が得られなかった可能性もある」とし、フナ以外の魚種が死んでいないことから、同症の疑いが強いとみている。

県水・大気環境課によると「現在の塩分濃度はフナが十分生息できる環境で、水門開放の影響は考えられない」という。

「変える」が多いよう  
だ。改正の動きが活発  
化しているが、戦後の  
日本を支えてきた柱の  
一つである憲法を変え  
ることなのか知ってほ  
しい」と話していた。

「(8) かな道一を  
花中上すコー  
を夢の出すー  
アルびキユす  
に疾ア飛てヒ

2013.04.08 読売 鳥取版

池の塩分濃度  
雄会長は「住民の中には悪臭で生活できず、持ち家とは別にアパートを借りて暮らす人もいた」と振り返る。

05年から塩分導入試験を行ったが改善は見られず、10年には池の10分の1がヒシで覆われた。県は11年度だけでヒシの回収に5000万円を費やしたが、抜本的な解決には至らなかった。

■高塩分化  
県などは、市民や池の周辺住民約3000人を対象に、塩分濃度や生態系への影響などを踏まえて池の将来像を4

## 悪臭解消も水質改善せず

鳥取市郊外にある「湖山池」の水質改善を目的に、県と同市が昨年3月、日本海に通じる湖山川水門(同市賀露町南)を開放し、1年が過ぎた。海水と混じり、塩分濃度が湯梨浜町の東郷湖並みに上がったため、悪臭の原因となっていたアオコなどは見られなくなった。一方で、水質については目立った改善はなく、淡水に生息する2枚貝の在来種「カラスガイ」がほぼ全滅するなど生態系への影響が懸念される。この1年の取り組みを追った。(加藤あかね)

### フナ・カラスガイのとり

湖山池の塩分濃度は、時代により変遷してきた。1963年に水門が完成した後は、1000〜10000ppm、増えつつあったが、83年の千代川河口付け替え工事後に周辺農地で塩害が発生。89年から同1500〜3000ppmの淡水で維持してきた。

しかし、年々漁獲量は減り、水質も悪化。2004年以降は南岸の浅場を中心に急速にヒシが繁茂し、カビ臭の原因ともなるアオコが大量発生した。同市自治連合会の池原範

案から選ぶアンケートを実施。水の農業利用はできないが、塩分濃度を東郷湖程度に高めることでアオコが減少する案を43.1%が支持した。県と市は「湖山池会議」での議論を踏まえ、昨年3月に水門を一部開放し、汽水湖としての再生に取り組み始めた。塩分濃度は、海水の10分の1から4分の1程度(1ppmあたり2000〜5000ppm)を目標としたが、潮位の関係などで塩分濃度は11月頃

カラスガイは県条例で「特定希少野生動物」に指定されている。県は水門を開放する前に池で見つかったカラスガイ26個を池の流入河川3か所に移して保護したが、昨年8月に全て死滅。流入域上流のため池では、20年前後のカラスガイの生息が確認されており、県は流域も含めた保全策を検討している。

一方、生態系への影響を危惧する声も上がっている。水門開放による高塩分化で生態系が破壊されたとして、生物の研究や保護活動を行う「県生物学会」など県内外の12団体は、県と市に見直しを

求める要望書を提出。鳥取大学の鶴崎展巨教授(動物分類学)によると、カラスガイなどイシガイ科の貝類計5種類がほぼ絶滅したといい、「高塩分化は生態系に重大な影響がある。レッドデータブックの希少種も多く、別の方法を考えるべきだ」と指摘する。

■現状維持9割  
今後の湖山池の水質改善への取り組みについて、昨秋、周辺7自治会に行われたアンケートで「少なくとも数年は経過観察する」という意見を高め、9割以上が現状維持を望んだ。

県と市は今年1月、「湖山池会議」を開催。2012年度から10年間の水質浄化対策などを定めた第3期水質管理計画を決定。新たに水の透明度や酸素量を指標に盛り込んだほか、散歩や釣りなどに訪れる利用者の満足度調査も加え、6割以上の評価を目指す。県水・大気環境課は「これまで池のあり方を決めきれなかった中で、この1年は大きな一歩となった。生活環境と自然環境に配慮し、様々な意見を調整しながらより多くの満足が得られる池にしたい」としている。

鳥取市郊外にある「湖山池」の水質改善を目的に、県と同市が昨年3月、日本海に通じる湖山川水門(同市賀露町南)を開放し、1年が過ぎた。海水と混じり、塩分濃度が湯梨浜町の東郷湖並みに上がったため、悪臭の原因となっていたアオコなどは見られなくなった。一方で、水質については目立った改善はなく、淡水に生息する2枚貝の在来種「カラスガイ」がほぼ全滅するなど生態系への影響が懸念される。この1年の取り組みを追った。(加藤あかね)



南岸を中心にヒシやアオコが発生した湖山池(2010年9月、県提供)

鳥取・湖山池 水門開放1年

案から選ぶアンケートを実施。水の農業利用はできないが、塩分濃度を東郷湖程度に高めることでアオコが減少する案を43.1%が支持した。県と市は「湖山池会議」での議論を踏まえ、昨年3月に水門を一部開放し、汽水湖としての再生に取り組み始めた。塩分濃度は、海水の10分の1から4分の1程度(1ppmあたり2000〜5000ppm)を目標としたが、潮位の関係などで塩分濃度は11月頃

まで上昇を続け、予想を上回る最大同7000ppm、増えに達した。

これにより、懸念だったヒシやアオコは、ほとんど見られなくなったが、一時的に赤潮の原因となるケイ藻などの植物プランクトンが発生。水質は過去5年の変動の範囲内で、目立った変化はなかった。浅場はヒシがなくなり環境は良くなったが、深場は塩分がたまり、夏は広範囲で酸素が少なくなったことが分かった。

■カラスガイ死滅  
カラスガイは県条例で「特定希少野生動物」に指定されている。県は水門を開放する前に池で見つかったカラスガイ26個を池の流入河川3か所に移して保護したが、昨年8月に全て死滅。流入域上流のため池では、20年前後のカラスガイの生息が確認されており、県は流域も含めた保全策を検討している。

一方、生態系への影響を危惧する声も上がっている。水門開放による高塩分化で生態系が破壊されたとして、生物の研究や保護活動を行う「県生物学会」など県内外の12団体は、県と市に見直しを

求める要望書を提出。鳥取大学の鶴崎展巨教授(動物分類学)によると、カラスガイなどイシガイ科の貝類計5種類がほぼ絶滅したといい、「高塩分化は生態系に重大な影響がある。レッドデータブックの希少種も多く、別の方法を考えるべきだ」と指摘する。

■現状維持9割  
今後の湖山池の水質改善への取り組みについて、昨秋、周辺7自治会に行われたアンケートで「少なくとも数年は経過観察する」という意見を高め、9割以上が現状維持を望んだ。

県と市は今年1月、「湖山池会議」を開催。2012年度から10年間の水質浄化対策などを定めた第3期水質管理計画を決定。新たに水の透明度や酸素量を指標に盛り込んだほか、散歩や釣りなどに訪れる利用者の満足度調査も加え、6割以上の評価を目指す。県水・大気環境課は「これまで池のあり方を決めきれなかった中で、この1年は大きな一歩となった。生活環境と自然環境に配慮し、様々な意見を調整しながらより多くの満足が得られる池にしたい」としている。

### フナが大量死

鳥取市の湖山池につながる湖山川で死んだフナが大量に見つかり、県は29日、死骸約340匹(約600匹)を回収、焼却処分したと発表した。

県水産課によると、27日に河川を点検していた県職員が、オイルフェンスに引

#### 湖山川

つかかったフナの死骸を見つけた。周辺の河川も調べ、同日と28日の2日間回収した。

同課は、水温が高くなるとうち中の酸素量の減少でフナが衰弱、運動性エロモナス症に感染した可能性や、産卵後に弱って死んだのではと推定。県栽培漁業センター(湯梨浜町)で魚体を分析し、死因を調べている。

で配布する。

配布は159日午前9時午後5時(なくなり次第終了)。1世帯2株まで。問い合わせは県環境立県推進課(0857・26・7874)へ。

### フナ大量死、疾病濃厚

鳥取市の湖山池につながる湖山川でフナが大量に死んだことについて、県は31日、フナの死骸(しがい)と生魚の計4体を検査し、3体が運動性エロモナス

症に感染していたと発表した。体力の落ちた魚がエロモナス菌に感染し、様々な症状を引き起こす疾病で、県水産課は、確定はできないが、疾病が原因だった可能性が高まったとしている。これまでに約550匹の死骸を回収、焼却処分しており、今後とも監視を続けていくという。

### 三朝町ダブル選日程

三朝町選管は31日、町長選と町議選(定数12)の日程を、11月5日告示、同日投票開票と決めた。立候補予定者説明会は9月27日に町総合文化ホールで行う。

東部 東の風、曇り夕方一時雨。波高1.5m。ち0.5m。

高部 【あす】北東の風、曇り。波高1.5m。

所部 【きょう】南の風のち東の風、曇り夕方一時雨。波高1.5m。ち0.5m。

東部 【東部】東の風10mのち曇り。波高1.5m。ち0.5m。

曇り 曇り 曇り 曇り

曇り夕方一時雨▽あ 曇り夕方一時雨▽あ

曇り夕方一時雨▽あ 曇り夕方一時雨

川面を埋め尽くすコイ。31日、鳥取市福井の福井川



### 遡上コイ大量 例年の5倍?

鳥取・福井川 鳥取市の湖山池に流

れ込む福井川が、遡上するコイで、大渋滞を引き起こしている。地元住民によると、産卵シーズンで例年梅

雨入り前後に遡上が見られるが、ことしは例年の5、6倍という。コイは春から初夏にかけて浅瀬の水草などに卵を産み付ける。福井川では、湖山池に面する河口から約400m以上流までさまざまに大ききのコイがひしめき合っている。

近くの農業の男性(63)は「毎年田植えの時期に上ってくるが、昨年からは急に増え、こ

とはは異常に多い。塩水を嫌って来るので」と話していた。

### 感染症で陽性

鳥取のフナ大量死 鳥取市の湖山池につ

ナス症の陽性反応を示したと発表した。

県によると、同症は水中に通常の細菌による感染症で、産卵後の衰弱による抵抗力の低下で発症した可能性がある。さらに、濁水で水中の酸素量が少なく、酸欠の可能性もあるとしている。

### 交通事故

		31日午前(0時現在)	
鳥取	死者	5	517(544)
	傷者	0	11(8)
福井	死者	7	666(652)
	傷者	2	652(678)
根	死者	0	10(17)
	傷者	2	763(799)
本年累計		(カッコ内は昨年の数)	

### 東日本大震災

# フナ大量に死ぬ

## 鳥取・湖山川 1600キロ回収、原因調査



水位の低くなった湖山川で、フナの死骸が相次いで見つかる。鳥取市金沢

鳥取市の湖山川に、5月下旬からフナが大量に死んでいるのが見つかった。県は5日までに死んだフナ約1600キロを回収、原因を調べている。

現場は、湖山川の西側付近。死んだフナが川面に浮かんだり、川岸に打ち上げられたりしている。ところどころ川底がむき出しになっている。近くに住む農業の花房平八郎さん(80)は「長年見えてきたがはじめてだ」と驚いていた。(同部健祐) デジタル版に動画

近くに住む農業の花房平八郎さん(80)は「長年見えてきたがはじめてだ」と驚いていた。(同部健祐) デジタル版に動画

### 徳島県町村会と災害時応援協定

鳥取、徳島両県の町村会が6日、「危機事象発生時相互応援協定」を結んだ。

鳥取、徳島両県の町村会が6日、「危機事象発生時相互応援協定」を結んだ。同時に被災する可能性の低い遠隔地の自治体同士で協力することで、素早い復旧につなげるのが狙い。食料・飲料水、救護・医療の資機材や物資、職員の派遣、避難施設の提供などで協力しあう。

# 大量死フナ2.5トン処分

## 塩分上昇、少雨影響指摘も

湖山川支流

鳥取県は7日、鳥取指摘。また、少雨で河川の水量が減っておる川に遡上して大量死したフナを、6日までに約2・5ト(約4800匹)回収し焼却処分したと発表した。県は原因として感

染症などの可能性を挙げるが、専門家の中には上昇した湖山川の塩分濃度が影響したとの見方もある。フナの死骸は5月下旬から湖山川や福井川など周辺河川で目立ち始め、6月に入って連日、大量の死骸が確認されている。5月末に行った検査では、フナから運動性エロモナス菌の細菌が見つかり、県は産卵後に抵抗力の弱まったフナが感染した可能性を指摘した。

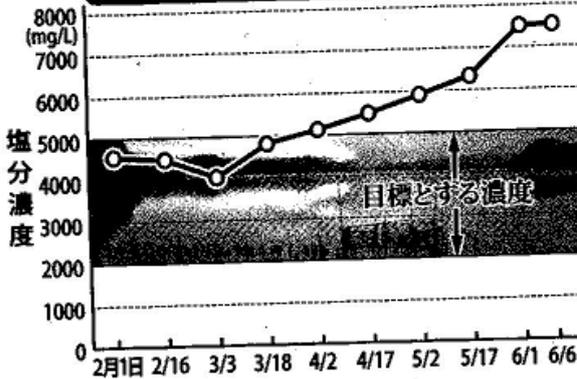
### 磨き抜いた技 伝統工芸の美

中国地方最大の工芸公募展「第56回日本伝統工芸中国支部展」(新日本海新聞社など後援)が7日、鳥取市の

48年ぶりに鳥取県かれた全国植樹祭の会議が7日、県庁で平井伸治知事は「警戒した。朝、水の周りを散歩して警察から職務質問を受けた」と明かした。知植樹祭全体として、の総括をした。

月刊

湖山池の塩分濃度の推移(青島大橋での測定)



# 湖山池

## 高塩分で周辺被害

### 渴水追い打ち抑制難航

2012年3月に海とつながる湖山川の水門を開放し、汽水化事業が進む鳥取市の湖山池の塩分濃度が基準(1立方メートル当たり5千ミリグラム)を大幅に超え、池周辺に影響が出ていることが分かった。塩分を含んだ水が風で飛散して野菜や庭木に被害をもたらす「潮風害」が報告されたほか、魚の大量への死との関連を指摘する声も。鳥取県は水門操作によって塩分の抑制を試みているが、渴水が追い打ちとなって濃度は高止まっている。

水中の塩分濃度は昨年同様基準を超える月があったが、今年は少雨により河川からの流入量も少ないことなどから4月初旬には5千ミリグラムを超え、6月5日には同7500ミリグラムに達したという。

潮風害の被害は、このよつな状況の中で発生。県によると、5月28日に吹いた突風で池の水が飛ばされ、鳥取市三津などでは家庭菜園のトマトやソラマメ、庭木などが黒く変色したという。

また同月下旬からは

## 千代川水系も水位低下

### 殿ダム貯水率56%に急減

5月以降の少雨の影響で鳥取県東部の千代川水系でも水位の低下が目立ってきており、平均流量が前年同期の約10分の1になっている。千代川水系の千代川が、7月以降も同じ状況が続けば、備水対策本

池周辺の河川を中心に「状態」との見方を示している。塩分抑制には、湖山川の水門を閉じることが近道だが、県は水の流れを止めると池が貧酸素状態となり、繁殖しているヤマトシジミに悪影響をもたらす恐れがあるとする。このため当面の対策として5月23日から三つある水門の一つ「船通し」を部分開放。貧酸素を避けつつ、塩分濃度の抑制を図るといふ難しい調整を続けている。また県と市は12日、関係課長で作る「湖山池チーム長会議」を立ち上げ、初会合では、プラスチック製のネットをコイやフナの子供を産卵場所とする試みをほじめ、酸素供給装置を周辺河川に設置する取り組みなどについて協議し、速やかに実行していくことを確認した。しかし、専門家は効果に疑問を投げ掛ける。傍聴していた県版レッドテータックの執筆者、谷岡浩さんは「対症療法にすぎない。塩分濃度の基準を守っていたらこのような状態にはならなかったはず」と指摘している。

しかし、NPO法人鳥取環境市民会議の土井倫子代表は「産卵を控えたコイやフナが塩分を嫌って近くの河川に大量に逃げ込んでいくが、水量が少ないため生きていくには厳しい状態」と指摘している。

水を呼び掛ける必要が出てくると報告した。千代川水系の千代川が、7月以降も同じ状況が続けば、備水対策本

